

<対局プログラム紹介>

Zen

(開発チーム・プロフィール)

Team DeepZen

尾島陽児氏 (思考部本体担当)

1977年神奈川県生まれ、フリープログラマー。2005年、囲碁ソフトに興味を持ち研究を開始。2009年、囲碁エンジン『Zen』を搭載した市販ソフト『天頂の囲碁』を開発、以来バージョンアップを重ねている。

加藤英樹氏 (ネットワーク並列化：クラスタ版、及びトーナメントなどでの操作担当)

1953年、東京都出身。2006年、東大の博士課程で囲碁ソフトの研究を始めると同時にモンテカルロ碁と出会う。2007年、アムステルダムで開かれたコンピュータ・ゲーム・オリンピックに PlayStation 3 を担いで GGMC 碁 (後に不動碁に改名) で参加。日本のモンテカルロ碁のパイオニア。2009年に尾島氏と Team DeepZen を結成、Zen のクラスタ版を担当。2010年に金沢で開かれたコンピュータ・ゲーム・オリンピックの、囲碁のトーナメント・ディレクター。コンピュータ囲碁フォーラム理事。

(主な戦歴概要)

2009年: スペインのパンプローナで開かれたコンピュータ・ゲーム・オリンピックの十九路碁で Zen が強豪 MoGo との激闘を、運も味方にして逆転勝ち。初参加初優勝。第三回 UEC 杯は 512 コアのクラスタで参加するも準決勝で KCC 囲碁に破れ三位に終る。

2010年: 金沢で開かれたコンピュータ・ゲーム・オリンピックの十九路碁は、Many Faces of Go、台湾の Erica との三つ巴のプレーオフにもつれ込むが Erica に敗れて準優勝。第四回 UEC 杯も決勝で Fuego に敗れ準優勝。エキジビションでは青葉かおり四段に六子で勝つ。

2011年: 参加したコンピュータ囲碁トーナメント 28 大会中優勝 25 回、準優勝 3 回という驚異的な成績をあげる。この中には、オランダのティルブルフで開かれたコンピュータ・ゲーム・オリンピックと第五回 UEC 杯が含まれる。KGS のコンピュータ囲碁大会の総得点で争われる、年間チャンピオンシップの初代チャンピオンとなる。KGS でのランクは、一手 15 秒の早碁で 6d に近い 5d、持ち時間 20 分+秒読み 30 秒で 5d に近い 4d。台北で開かれた TAAI 2001 で台湾の周俊勳九段に六子で、フランスのボルドーで開かれた EGC 2011 で林耕三五段に五子で、東京で開かれた第五回 UEC 杯で鄭銘コウ九段に六子で、いずれも危なげなく勝つ。囲碁ソフトがプロ棋士に五子で勝ったのは史上初。

(当日のハードウェア構成) (予定)

マスター PC: Xeon X5680/4.2 GHz x 2 (6 core x 2 SMP)、RAM 24 GB、

スレーブ PC-1: Xeon W3680/4 GHz (6 core)、RAM 12 GB、

スレーブ PC-2: Core i7 3930K/4.2 GHz (4 core)、RAM 16 GB、

スレーブ PC-2: Core i7 920/3.4 GHz (4 core)、RAM 6 GB。

ネットワークは通常の GbE だが、NIC は Intel、ハブは CenterCOM と、家庭用より少し高級なものを使っている。

(ソフトウェアの特徴)

モンテカルロ木探索を利用した、世界トップレベルの囲碁プログラム。シミュレーションの量より質を重視しているため、時間あたりに読む局面の数が同種のプログラムに比べて少なめなのが特徴。

(商品版)

2009年: 「天頂の囲碁」(毎日コミュニケーションズ)

2010年: 「天頂の囲碁2」(毎日コミュニケーションズ)

2011年: 「天頂の囲碁3」(毎日コミュニケーションズ)